

2011年2月25日

放送倫理・番組向上機構（BPO）

放送倫理検証委員会御中

株式会社 TBSテレビ

編成制作局長 難波一弘

「参議院議員選挙にかかわる4番組についての意見」への対応とその後の取り組みについて

当社番組『関口宏の東京フレンドパーク』の「3択SAMURAI」について、「放送倫理・番組向上機構（BPO）放送倫理検証委員会」より2010年12月2日、委員会決定として「意見」を受けましたので、以下の対応と取り組みを行っておりますことを報告します。

1．委員会決定後の対応

当社では貴委員会の「意見」を受けて、「BPO放送倫理検証委員会の意見書を真摯に受け止め、選挙の公平・公正性確保について、スタッフの認識をより一層高めるよう努めてまいります。」というコメントを公表しました。

また、「意見」の内容につきまして、通知当日12月2日の『Nスタ』の中で放送をしました。

2．社内での報告と周知、問題の共有化

貴委員会の「意見」を、通知翌日の12月3日、当社内の放送倫理委員会や、

定例の局長会などで報告し、通常番組に限らず、再放送やイベントなども含め、あらゆるコンテンツに関わるセクションは、公職選挙法に関心を持ち、政治部や選挙本部、審査部など専門のセクションに相談するなどして、判断するよう注意喚起が行われ、全社で周知徹底を図るように確認しました。

12月17日には、当社の放送、及び当社が放送責任を負う番組の制作や取材過程等における人権侵害等について審議する第57回「放送と人権」特別委員会においても、内容を報告、外部委員から問題点の指摘をいただきました。また、12月20日には、第535回番組審議会に「意見」の内容、および改善策を報告しました。

制作現場である編成制作局では、貴委員会の「意見」が定例の局長会で報告されたのを受け、制作センターの部長会および各部会で部員に対して、これまでの経緯を含めて説明を行いました。

特に今回は、立候補予定者の情報が事前にメールで送付され、注意喚起が行われていたにもかかわらず、「制作と放送の現場において政治や選挙に対する関心が低く、きめ細かな配慮が行きわたっていなかった」こと、また、2010年6月のBPO報告（No.85）で注意喚起が求められていたにもかかわらず、その意図が放送現場に届かなかったとのご指摘もあり、制作現場への周知徹底が急務であると認識いたしました。

そこで、「意見」の内容要旨を単に口頭で説明するにとどまらず、部員の政治や選挙に対する関心にしっかりとつながるよう、じかに文面にふれてその内容を理解するように指導し、また、当該部署の部員に対しては全文をコピーして配布しました。

3．再発防止に向けた取り組みについて

TBSテレビでは、従前より、国政選挙が近づいてきた時期に、考査セクションより、特に選挙の公正を害さぬように十分注意して適切な対応をするべきという通達が繰り返し出されてきました。にもかかわらず、スタッフの認識の甘さ、配慮の不十分さから、結果として公平・公平さを欠く結果となったことを重くみて、番組では問題発生の直後に、報道および編成考査セクションと、立候補者や立候補予定者を含め、選挙に関する表現等の注意事項を再確認いたしました。

制作現場では、今回の事案を契機に、放送前のチェック体制を見直しました。直接の番組担当者だけでなく、考査担当者はもちろん、担当の部長や他番組のプロデューサーも入ってできるだけ複眼的にチェックし、小さな問題でも気づいたことを指摘しあってミスを未然に防ぐ体制づくりを行っています。

さらに、直近のトラブル事例やその対処法、BPOからのご指摘などを、いつでも閲覧できる、いわゆる「コンプライアンスサイト」を2011年2月から社内ネットワークのHPに立ち上げました。現場スタッフが簡単にさまざまな事例の経緯を確認したり、BPOの勧告や、見解、意見を参照したりできるよう、各部会で使用方法を説明するなどして利用を推奨しています。

他にも、これまで報道局員に対してのみ行われていた、選挙直前の講習会を番組制作の現場のスタッフにも呼びかけて受講してもらうようにするなど、政治や選挙に対する意識や関心のレベルを高める努力が多角的に行われるようにしました。

ことし4月に予定されている統一地方選挙に向けては、2月14日より、報道局と編成考査局より、立候補予定者の取り扱いについて、具体的に実名を挙げた「選挙メモ」の配布を始めました。「選挙メモ」は、社員、外部スタッフを問わず、また、制作現場、非現場を問わず、広くメールで配布すると共に、先に紹介した「コンプライアンスサイト」でも、局内各所で役立てるよう呼びかけております。今後も、投票日まで、スタッフ一人ひとりが、選挙の公正・

公平性の確保について、認識を高めるよう努めてまいります。

今回の「意見」で、貴委員会は、2010年6月6日放送の『アッコにおまかせ』を「類似した事例」として指摘しておられます。これにつきましては、制作スタッフが社内ルールに則って検討を重ねた上で、行ったもので、選挙の公平・公正性を著しく損なった放送とは考えていないと、ご報告した経緯もあり、あらためて委員の方々との意見交換の場を設けさせていただければと考えております。

貴委員会と同じく、私どもも「自由闊達な取材・放送」を願っており、そのために、今後も「現場のスタッフ一人ひとりが、同じような事態が発生しないように目配りし、自発的・自律的に再発防止のための努力」を重ねてまいります。

以上